

神戸市 with コロナ対応戦略

令和2年9月
神戸市

1. 策定趣旨

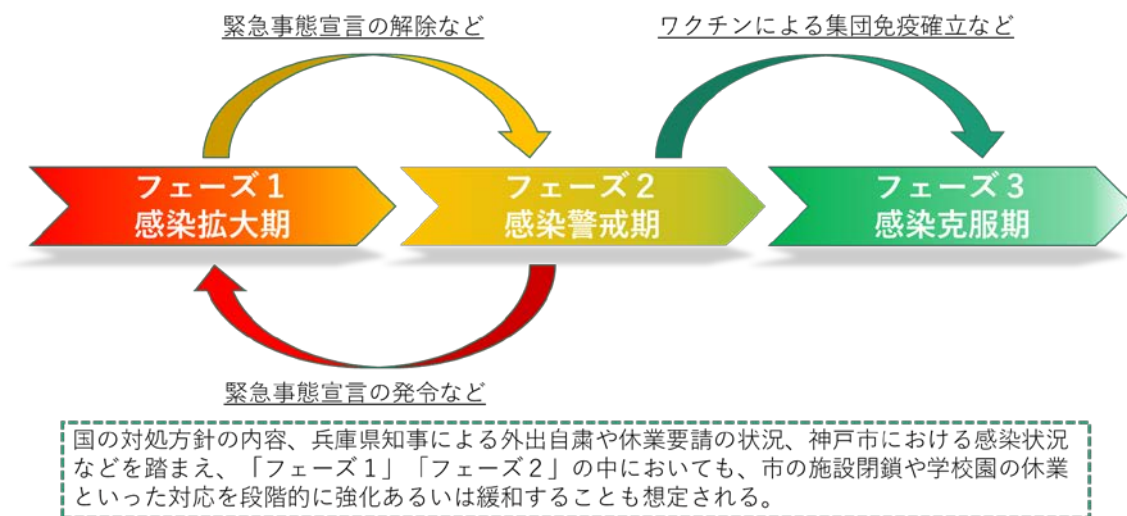
新型コロナウイルス感染症は、感染拡大期と感染警戒期を繰り返すことが想定され、長丁場の対応が必要になります。

このため、この感染症の存在を前提にした「with コロナ」時代が今後、年単位の期間で継続することを覚悟しなければなりません。

このような認識のもと、神戸市の施策だけでなく、市民の生活スタイルや経済活動を「with コロナ」時代に対応したものへと変容させることが求められています。

本戦略を市民・事業者・行政の共通認識とし、感染拡大の防止と市民生活・経済活動の維持・回復を両立させていくことを目指します。

2. 前提となる3段階のフェーズ



3. 最重点目標と期間

(目標1)

新型コロナウイルス感染症に対応するための医療救急体制を確保し、感染症による死者数を最小限に抑える

(目標2)

感染拡大防止に最大限の配慮を行いながら、市民生活・経済活動をできる限り維持・回復する

<対象期間>

フェーズ3への移行により、通常体制で上記2つの目標が達成されるまでの間

4. 市民意見を踏まえた本市の考え方

(1) 総論

世界を襲った新型コロナウイルスの感染拡大は、外出や営業の自粛などこれまでの常識を大きく覆す事態となり、今もなお市民生活、経済活動に甚大な影響を与えています。

感染症との闘いは、歴史的に繰り返されているものの、新型コロナウイルス感染症の流行による影響は、現在の私たちが経験したことがないものとなっています。このような闘いに対しては、行政だけでなく、市民・自営業者・企業等の各方面のみなさまそれぞれがどのような考えを持ち、どのような行動を起こせば良いか考えていくことが何よりも重要です。このような考え方のもと、みなさまからのご意見を募集し、自由かつ多様なご意見を多数いただき、それらを踏まえ、「with コロナ」時代に求められる視点として、

- ① 市民のみなさまの不安にいかに向き合うか
- ② 「高密度至上主義」からいかに脱却するか
- ③ 「人」と「人」との絆をいかに紡いでいくか

の3点が、本市にとって重要な視点であると考えます。

① 市民のみなさまの不安にいかに向き合うか

新型コロナウイルス感染症により、非対面・非接触へのニーズが高まり、健康・予防意識も更に高まるなど、私たちの日常は一変しました。市民のみなさまは、感染防止を図りながら、日々の生活、経済活動を送ることに、大きな不安を感じておられます。そのため、感染拡大の防止、医療提供体制の確保、社会的弱者の支援、正確な情報発信など、市民のみなさまの不安を軽減する取り組みを進めます。

② 「高密度至上主義」からいかに脱却するか

感染症の流行により、「人」と「人」との物理的距離を取ることが求められ、自然環境へのニーズや都心部に人口が集中しない人口分散のニーズが高まっています。神戸には、都市部に近接した海や山などの自然、里山・農村といった豊かな資源があります。他都市にない神戸の豊かな資源を大事にし、活かしていくことで、「高密度至上主義」から脱却し、「with コロナ」時代にふさわしい疎密のバランスの取れたまちを目指します。

③ 「人」と「人」との絆をいかに紡いでいくか

この感染症との闘いにより、私たちが、変わらず大事にしなければならないもの、「神戸のまち」の力が見えてきました。最も大きな「神戸のまち」の力は、「人に優しく、人を大事にする」という変わらない気風です。みなさまからのご意見においても、

『阪神淡路大震災より再起した神戸市の底力と人の繋がりは大事にしていきたい』

『災害下であることをひと時も忘れないこと。我々市民は自助とは何かを考え続けること』

『人と人とのつながり、阪神淡路大震災では、共助が働いた。災害の発生に関わらず、共助が働く社会となるようにしていくべき』

『感染対策で人と人との物理的距離をとることによって、コミュニケーションまでもが疎遠になってはいけない。人とのつながりの中で、人としての優しさや温もりが生まれる』

というご意見を数多くいただきました。神戸のまちは、これまでの歴史の中で、戦災、震災、自然災害等多くの苦難に立ち向かい、そのたびに再起を果たしてきました。神戸市民の中で培われてきた、この変わらぬ気風は、必ずや現在の難局を乗り越える大きな力になると確信しています。

今回の感染症との闘いは全く未経験の事態の連続となっています。重要なことは、元に戻すことだけではなく、常に新しい価値とスタイルの構築を目指すことです。「withコロナ」時代における「神戸のまち」のあり様を市民・事業者のみなさまと共に考え、衆知を活かし、「神戸のまち」の力を発揮することで、この感染症との闘いを乗り越えていきます。

(2) 分野別の考え方

「with コロナ」時代に対応した新しい生活様式や経済活動を促進し、施策の転換を図るとともに、感染拡大の防止と市民生活・経済活動の維持・回復を両立させながら、テクノロジーを活用したデジタル×ヒューマンな社会を目指すため、市民のみなさまからの多くのご意見を踏まえ、5つの分野（医療・健康、経済、まちづくり、くらし、市政）において、今後の本市の考え方をまとめました。

【医療・健康】

引き続き感染の状況に応じ、感染拡大期に対応することができる医療提供体制を整えるとともに、検査体制を確保し、重症化、院内感染予防のための検査を積極的に行える体制を構築します。

また、「新しい生活様式」に基づいた適度な運動を心がけることや受動喫煙防止など、健康増進に向けた啓発を推進し、必要以上に感染症を恐れることなく生活を送れるような取り組みを進めます。とりわけ神戸には、山や海などの自然やのどかな田園風景が広がり、他の都市にはない魅力がたくさんあることから、そうした身近な資源を活かして、こどもから高齢者まで楽しく野外活動を行い、健康に日々を過ごすことができるよう、さらなる環境整備を進めます。

- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況等を継続的に監視し、感染拡大期に十分対応することができる医療提供体制の万全の準備に取り組みます。
- ・感染症以外の医療を安心して受けられる医療機能の確保を行います。
- ・新たな感染拡大の兆しを早期に把握するため、検査体制を確保し、重症化、院内感染予防のための積極的 PCR 検査を行える体制の構築に取り組みます。
- ・保健所の機能強化を図ります。
- ・新型コロナウイルス感染症の医療救急体制を確保するためにも、夏季においては徹底した熱中症予防対策に取り組みます。
- ・感染拡大期において、長期間に渡る外出自粛による体力低下等を防ぐため、「新しい生活様式」に基づき、健康増進に向けた取り組みを進めます。
- ・こどもから高齢者まで楽しく野外活動を行い、健康に日々を過ごすことができるような環境整備に取り組みます。
- ・高齢者や障がい者などの福祉施設の感染防止対策を支援し、利用者・施設従事者への感染拡大・施設内のクラスター発生の防止に取り組みます。
- ・保育所・学童保育施設等において、「with コロナ」時代に対応した保育の提供や、こども・施設従事者への感染拡大防止に取り組みます。
- ・学校において、3つの密を避け、マスクの着用や手洗いなど基本的な感染対策を継続する「新しい生活様式」を踏まえた感染防止対策を徹底します。

【経済】

市内企業、個人事業主の事業継続・経営回復に向け、最大限支援していきます。

また、市内事業者の ICT 等のテクノロジーを活用した課題解決の取り組み支援、国内観光客を獲得するための観光施策の推進や、今後の神戸空港の活用など、「with コロナ」時代に対応した経済活動を推進していきます。

- ・市内企業、個人事業主の事業継続・経営回復に向けた支援に最大限取り組みます。
- ・人・モノの移動が制限される中でも、市内経済活動が滞ることがないように、域内調達・域内消費の推進に資する取り組みを進めます。
- ・「新しい生活様式」により変化する顧客や消費者の需要に即した新事業の展開や人材育成に取り組む事業者を支援します。
- ・リモートワークをはじめとした働き方の抜本的な変革、非対面・非接触型の商談取引の定着やキャッシュレス化の推進など、ICT 等のテクノロジーを活用した課題解決の取り組みを支援します。
- ・観光施設の感染防止など、神戸での観光における安心・安全を発信し、「with コロナ」時代に対応した観光振興に取り組むことで、これまで以上に国内観光客を獲得するための施策を推進します。
- ・市内の魅力あふれる観光資源を活用して市民や域内の方々の来訪を促進し、マイクロツーリズムの振興に取り組みます。
- ・地産地消のさらなる促進や新たな販路開拓など、「with コロナ」時代に対応した持続可能な農業振興に向けた取り組みを進めます。

【まちづくり】

神戸の豊かな自然環境などを活かした新たな生活スタイルやビジネススタイルを推進するまちづくり等に取り組むことで、東京一極集中から地方への分散の流れを創り出します。

また、「with コロナ」時代に対応した多様な移動手段を活用しやすい環境づくりや、文化・スポーツに親しめる環境づくりなどを進めます。

- ・東京一極集中から地方への分散に対応し、企業・人口の受け皿となる都心・既成市街地・郊外が機能する多極型のまちづくりを推進します。
- ・里山、六甲山、須磨海岸など、神戸の豊かな自然環境や農村環境、景観、文化財などを活かした新たな生活や、自然調和型のオフィス誘致等、新しいビジネススタイルを推進するまちづくりに取り組みます。
- ・道路、公園などの公共空間を柔軟に活用するなど、民間事業者と連携するとともに、低未利用地等を活用して住宅、商業などの施設が混在する複合的なまちづくりを進め、暮らしの質の向上を図ります。
- ・持続的な都市経営や経済活性化を図るために、民間ビジネスや雇用を喚起し、IoT、AI等の先端技術を取り入れながら新たな価値を生み出す創造的なまちづくりを進めます。
- ・空家を魅力的なシェアオフィスとしてリノベーションし、リモートワークや地域コミュニティの場としての活用などに取り組みます。
- ・キッチンカー導入への支援により、生活利便性の確保などに取り組みます。
- ・新たなモビリティや自転車など、「with コロナ」時代に対応した多様な移動手段を活用しやすい環境づくりを進めます。
- ・六甲山や農村などの自然豊かな地域において、まちづくりと連携し、地域特性に応じた公共交通の充実を目指します。
- ・市民生活を豊かにするため、市民が安全に文化やスポーツに親しみ、楽しめるルールづくり・場づくり・健康づくりに取り組みます。
- ・身体的距離の確保など「with コロナ」時代に対応できる公共施設のあり方を検討します。

【くらし】

社会インフラの維持、社会的弱者の支援、こどもの「学びの保障」等、市民の安全・安心なくらし、こどもの健やかな成長に資する取り組みを進めます。

- ・生活維持に不可欠な社会インフラ、公共交通を持続可能な形で確保するとともに、ICTを活用したサービスレベルの向上を図ることにより、市民の安全・安心な暮らしを目指します。
- ・市民生活、市内経済を下支えするインフラ、物流を維持するための支援や、そこで働く方々の感染防止対策に取り組みます。
- ・感染症にかかる備蓄物資の確保、適切な避難所運営などにより、「感染症」と「自然災害」といった複合災害へ備えた万全の危機管理体制を構築します。
- ・様々なコミュニケーションツールを活用し、「with コロナ」時代に対応した社会的弱者の見守り活動の支援に取り組みます。
- ・生活困窮に陥らないためのセーフティネットの機能を発揮し、社会的弱者の生活支援に取り組みます。
- ・差別・中傷を許さない人権意識の啓発に取り組みます。
- ・就業のサポートなどひとり親家庭の抱える課題への支援に取り組みます。
- ・外出自粛等に伴う虐待やDVから子どもたちを守るため、引き続き関係機関と連携し、支援の充実に努めます。
- ・1人1台の端末の配備によるICT学習環境の充実や、教員・学習指導員等の体制充実などにより、児童生徒の「学びの保障」に取り組みます。
- ・地域課題を解決するため、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスを推進します。
- ・動画配信などを活用した新たな取り組みを進め、アーティスト・クリエイターの活躍の場および市民の鑑賞機会を守ることでできる環境づくりに取り組みます。

【市政】

多くの市民・事業者に必要な情報を正確かつ迅速に届け、市民に寄り添ったサービスの向上等に取り組み、真に必要なものを見極め、新しい取り組みを推進します。

また、徹底した行政手続きのオンライン化を進め、時間と場所を問わず手続き可能な環境を整えます。

- ・ ICT の活用、事務手続きの簡素化、オンライン化の推進により、ペーパーレス、押印不要でも様々な手続きができる、より便利な行政サービスへ転換します。
- ・ 相談事業の強化など、市民ニーズに沿った行政サービスの展開に取り組みます。
- ・ 「with コロナ」時代の多様な地域活動を推進し、「新しい生活様式」等の実現に向け、ICT 等を活用しながら住民参加による地域連携の強化を目指します。
- ・ 新しい時代に対応した施策・制度への転換を行い、次世代へ負担を先送りしないよう、財政規律の確保に努めます。
- ・ 様々なデータを収集・解析することにより、エビデンスに基づく政策立案を推進します。
- ・ 多様な媒体を活用することで、高齢者や障がい者など、様々な課題を抱える、より多くの市民・事業者に必要な情報を正確かつ迅速に届けられるよう、一層取り組みを進めるとともに、IT リテラシー向上のための施策に取り組みます。
- ・ ICT 等も積極的に活用しながら、市民との多様なコミュニケーションによりニーズを的確に把握し市政に反映していきます。
- ・ 民間事業者の提案や民間資本を活用することで、公共空間や公共施設等がさらに活用しやすく魅力的なものになるよう取り組みを進めます。
- ・ 「新しい生活様式」を推進するため、わかりやすく情報を発信します。

5. 「with コロナ」時代における政策例

○住宅団地への移動販売やキッチンカーの提供実験の開始

(令和2年4月27日、8月31日発表)

- ・生活利便施設（スーパー、コンビニ等）が充実していない住宅団地（ニュータウン）の縁辺部に対して、民間事業者による移動販売車での生活サービスの提供を支援することにより、住宅団地の再生や都市のスポンジ化対策、with コロナにおける暮らし方の支援を行います。



○こうべ病院安心サポートプランの創設～神戸市医療提供体制の安定的確保プラン～

(令和2年6月2日発表)

- ・本市では、感染症指定医療機関及び適切な感染予防策がとれる医療機関との連携のもと、新型コロナウイルス感染症の再度の感染拡大に対応できる入院医療体制を確保しています。
- ・これらの医療機関では、新型コロナウイルス感染症患者への対応のため、通常医療を大幅に制約せざるを得ない状況が生じるほか、院内感染が発生した場合は、職員の自宅待機等により病院機能を維持することが困難となります。また、新型コロナウイルス感染症患者の治療の最前線で戦う医療従事者、医療機関に対する誤解や偏見に基づく差別も生じています。
- ・そこで、患者受入医療機関を神戸市が全面的にサポートする「こうべ病院安心サポートプラン」を実施することで、本市の医療提供体制を安定的に確保していきます。

○神戸市と株式会社メディカロイドの連携による新型コロナウイルス感染症対策～自動 PCR 検査ロボットシステム等の開発・社会実装支援について～

(令和2年6月3日発表)

- ・神戸市と株式会社メディカロイドは、新型コロナウイルス感染症の再拡大に備え、自動 PCR 検査ロボットシステム等の開発・社会実装に向けて連携・協力し、自動 PCR 検査ロボットシステムや、見守り・ケアネットワークシステム等を社会実装することで、医療従事者の感染リスクや作業負担を低減させるとともに、PCR 検査体制の拡充に貢献します。



○市営地下鉄駅舎内でのスマート音声案内システムの実証実験を実施します！

with コロナ社会における「Human×Smart」な都市づくり (令和2年7月31日発表)

- ・神戸市では、「Be Smart KOBE」として、先進的な技術を活用して社会課題を解決する取り組みを推進しています。この取り組みの一環として、AI 搭載カメラで混雑状況を検知し、音声案内により混雑状況を緩和させるなど、感染拡大に配慮しつつ、快適な移動空間を提供します。with コロナ社会を見据えた「スマート音声案内システム」の実証実験を市営地下鉄三宮駅において実施します。

○市内の医療機関における「遠隔 ICU システム」の導入 (令和2年8月11日発表)

- ・神戸市は、株式会社 T-ICU、神戸市立医療センター中央市民病院と連携し、国内初の取組として、新型コロナウイルス感染症患者の入院受入れを行う市内の医療機関への、「遠隔 ICU (集中治療支援) システム」の導入を支援します。
- ・集中治療専門医が遠隔地からネットワークを通じて診療支援を行うことにより、「重症化の早期発見」など感染症患者への適切な医療の提供と市内の医療提供体制のさらなる充実を図ります。

○新型コロナウイルス感染症 酒類を提供する飲食店における感染防止策の実施

(令和2年8月18日発表)

- ・社会経済活動を行いながら、安心して暮らせる街を目指して、接待を伴う飲食店に限らず、酒類を提供する飲食店を対象とした PCR 検査を実施するとともに、業種ごとの感染拡大防止ガイドラインに基づく指導を徹底して感染防止策を強化することで、クラスター発生の未然防止に努めます。

○全国初！！「KOBE 学生地域貢献スクラム」いよいよスタート～新型コロナに負けずに地域に貢献する学生を応援します～（令和2年8月20日発表）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、学修活動や日常生活が制限される中で、学生は勉強や研究、課外活動等に日々励んでいます。
- ・他方、地域では様々な地域・社会課題が増加する中で、課題解決のための活動の担い手不足が深刻化しており、学生などの若手人材の参加を推進していく仕組みの構築が急務となっています。
- ・このような学生や地域の状況を踏まえ、多様な社会貢献活動への参加を通じて、学生に一定の支援金を給付する「KOBE 学生地域貢献スクラム」事業を実施します。本事業により、学生の経済的負担の軽減を図るとともに、地域・社会課題の解決に向けた、学生と地域コミュニティ等とのネットワークづくりにもつなげていきます。



○～with コロナ時代に神戸で支援の輪を広げる～「with コロナ KOBE 応援プラットフォーム」始動！！みなさんの「応援したいこと」を募集します

（令和2年8月20日発表）

- ・多くみなさまからの応援を困っている方々に届けるため、「with コロナ KOBE 応援プラットフォーム」事業を開始し、困っている神戸市民に対し「応援したいこと」の募集を行い、具体的な支援の取り組み(プロジェクト)につなげていく“プラットフォーム”を運営します。



■ 「神戸市withコロナ対応戦略（骨子案） 市民意見募集」の主なご意見

○募集期間 令和2年6月10日～7月3日
（神戸市ホームページのアンケートフォーム）

○募集結果 872件（FAX等14件を含む）
※主なご意見を取りまとめ掲載しています。
なお、個別のお問い合わせ、ご要望等については掲載しておりませんのでご了承ください。

主なご意見

- ・感染症による直接的な死者だけでなく、医療体制のひっ迫や患者の受診抑制による犠牲が出ないようにしなければならない。
- ・夏場のマスク着用による熱中症対策に取り組むべき。
- ・免疫をつけるような食生活、適度な運動を心がけ、自分自身を健康に保つべき。
- ・医師・看護師等の医療従事者の増員と、病院・保健所の増設が必要。
- ・医療機関におけるオンライン診療、電話診療等の取り組みがさらに必要。
- ・医療崩壊を起こさないようにとされているが、行政・国政のイニシアチブが弱く、医療現場も各病院や医師の自己犠牲が主体となっており、なかなか解決されない。
- ・第2波や今後の新たな感染症に対して、医療崩壊をさせないために、これまで行ってきた保健所機能の縮小や削減、ベッド数の削減や病院機能の集約による地域医療病院の再編をやめるべき。
- ・保健所を各区に設置してほしい。
- ・安心して病院に行けるように、どこの病院に発熱外来があるのかを区ごとに確認したい。
- ・予防医学の周知や、免疫力を高める指導を行うべき。
- ・正しい消毒液の使い方を行政として指導すべき。
- ・高度な医療技術や企業と連携した感染症対策を推進すべき。
- ・医療従事者等、リスクのある職場で働いている方に向けた支援を行うべき。
- ・医療産業都市のある神戸で、医療従事者を守る仕組みと啓発活動を全国に先駆けて実施していくべき。
- ・コロナ後の社会を生き抜くためには、感染症の正しい知識を持つことが何より大切。
- ・予防も大切だが、発熱や体調不良時は、無理せず欠勤、欠席できる環境づくりが必要。
- ・学校での3密対策の充実を進めるべき。
- ・第2波に備えて最も重要な事は「医療・高齢者介護施設」での院内感染の防止。
- ・体温計やマスク、除菌シートを追加で備えておきたい。
- ・マスク等、市は独自に備蓄を始め、今後新たなウイルスが発症しても市民が安心できるようにしてほしい。せめて医療機関に余裕をもって配布できる体制を作ってもらいたい。
- ・まちなかの消毒を強化するなど、冬のインフルエンザ拡大を防止する際にも適用できるような対策を実施してほしい。
- ・エビデンスに基づいて、感染拡大を防ぐことが大切。

<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式を科学的に効果検証し、緩和できるものは緩和するなど、見直しを行うべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回の新型コロナ関係のデータ蓄積・分析を進めて将来に備えてほしい。また、防疫情報として一般に分かりやすく公開してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な手洗い・うがい・ソーシャルディスタンスを心がけることで、感染予防につなげていくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの効果をもっとアピールしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・第2波では、こどもへの感染リスクが高くなることも考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・マスクの着用や外出先でのマナー等、ひとりひとりが思いやりを持って行動すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・マスク等の着用を強制するのはいかがか。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに感染しない方法は、3密を避けることと人との距離をあけること。風向きはいつも計算に入れて行動している。
<ul style="list-style-type: none"> ・透明マスクがあれば、コミュニケーションも取りやすくなる。特に、聴覚障がい者等の方は手話がコミュニケーションツールなので、非常に便利。
<ul style="list-style-type: none"> ・人と話さないときもマスクをし続けて体調が悪くなるのは釈然としない。
<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークが推進されることによる運動不足等に対する健康増進策が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・外で自然の風に当たり、心身を開放させる機会は大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活習慣を心がける、普段と違う景色を見る、空気を吸ってリフレッシュする等が大切。
<ul style="list-style-type: none"> ・3密防止のため、人が集まる施設の閉鎖やイベントの中止等が行われているが、気分転換を求め、少人数での屋外活動が活発になるのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・道路（ハイキング道）、公園、河川の草刈り、清掃、施設の補修等を行い、屋外での活動を活発にすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・この機会に「受動喫煙」を完全になくすことが大切。段階的に取り組みを進め、世界のグローバルスタンダードに合わせた素晴らしい景観ときれいな空気の「健康都市」として打ち出してほしいか。
<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県で実施している、お店の感染予防対策を店頭へ提示することを神戸市内で義務付けても良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・大阪で実施している「コロナ追跡システム」のようなものがあれば、安心してお店に行けるので実施してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なワクチンや特効薬が早期に開発されれば、また以前のように戻るのではないかと楽観的に考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少やコロナの影響で、倒産・リストラ・鬱・DV等の心の病から自殺者が増えそうで心配。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が新型コロナウイルスを持っている、感染しているにもかかわらず無症状であるという前提のもとに行動する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・屋内や公共交通機関等で、マスクを着用しない人は入れないなど、少し強めの対策を取っても良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルスの居なくなったが如くの気の緩みは禁物。自粛ベースありきの日常生活を送るべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンが開発されても一般市民に行き渡るには相当の年月がかかるのではないかと懸念している。
<ul style="list-style-type: none"> ・定時的な市中感染調査を実施してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの健康管理とそれによる力を問い直すことも必要。行政や医療機関の対処には感謝するが、行政に頼らず自分で力を取り戻す、そうしたきっかけにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染の小康期であれば、感染対策は個人の自由という視点も忘れてはいけない。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大を防ぐことは大事だが、必要以上にナーバスに構えることも如何かと思う。状況を見ながらの弾力的なコロナ対策が大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・空気感染、接触感染のウイルスや細菌が流行った時に、同じ対応をしようとする人、それをしない人を糾弾する人が生まれては困る。
<ul style="list-style-type: none"> ・第2波が来た時に、少々の発熱でヒステリックに通院することがないように市民の意識改革を進めてほしい。

<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言や営業自粛は県単位じゃなく、地域単位で行うべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルスを恐れ、外出しなくなると免疫力が低下しそう。引きこもりもよくないのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・自粛時期は本当に家にいるようにしたら、今は寝たきりに近い状態になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・20代くらいまでの市民に「基礎看護」の講習を受けてもらうべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナにかかった方の肩身が狭くならないよう、罹患した方やその家族の方々に精神的なフォローを。そしてその必要性をメディアで伝えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・近年ルーズになっていた社会規範や衛生観念を見直す良い機会であり、負の面だけを強調するのではなく、自分の免疫力を高めて明るく生活する方法をPRすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染により隔離される際には、ペットを残していけないので、GPS等の条件付で今後は自宅待機を認めてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルディスタンスの現実的な距離がわかると、安全対策に過剰投資が不要で、元の生活に近い生活を送れる。
<ul style="list-style-type: none"> ・屋外施設を充実させることで、自然と触れ合い、体力向上につながられるようにしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・自転車通勤が増えるため、自転車道や自転車駐輪場を整備してほしい。加えて、シャワーや着替えができる施設があれば、自転車通勤やランニング・徒歩通勤など利用者が増え、市民の健康増進にもつながる。
<ul style="list-style-type: none"> ・抗体検査、PCR検査等が必要に応じて受けられる体制を早急に確立するべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・無料でPCR検査を実施してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・医療関係者や介護・保育・障がい福祉関係者、教職員等、「密」が避けられない分野の人たちがPCR検査を受けられるようにすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎疾患を抱えている高齢者や障がい者、またその家族は、優先的にPCR検査を受けられるようにすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・全市民に抗体検査を実施してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上の高齢者がどの程度抗体を持っているか調査すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染者専用の病院を設置すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・域内の経済循環の促進に資する施策を考えるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響を受けている市民・事業者への支援を行うべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回のコロナ問題を機会と捉え、デジタル社会に向けた取り組みに投資し、生産性向上やリモート化（オンライン授業、在宅勤務等）をめざすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・観光業について、海外からの観光客依存から国内観光客に変えていく必要がある。そのためには神戸の魅力の充実が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後、感染者が増加しても自粛を促すことで、経済をストップさせないようにしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動を止めないよう、withコロナ時代のニューノーマルに適応することを、世の中が変わっていく大きな機会と前向きに捉え、日常生活を過ごしていくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防を継続しつつ、コロナ禍以前の生活に戻れるよう経済活動を行うべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・経済の復活は重要なので、県外移動が許可された後は必要以上に怖がらず、用心しながら個人の活動も開始しなければ、経済は低調のままになる。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策で必要となる、マスクや消毒液など、地元の企業とコラボして神戸ブランドの商品を市民に提供すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・解除後も町に出かけると感染するかも知れないという不安が経済不振の要因となっている。ウイルスとはこう戦うのだという明確な意思と目標を市民にアピールする組織・機関をつくるのが大切。
<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトや派遣で働いていた方々の経済的影響は大きく、今後、正社員志向が強まる。一方、リモートワークを通して、各社員の存在が浮き彫りになり、正社員の絶対数が見直されることが懸念される。
<ul style="list-style-type: none"> ・自宅で周りの目を気にせず働けるのでストレスも減り、残業も減り、終業後はすぐに自分の趣味の時間を取れるようになり、とても働きやすくなりました。神戸市全体でリモートワークを推進すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺、近くの商業施設等でも民間によるサテライトオフィスを多数設置するなどすれば良い。

・人と人とのコミュニケーションは大事だが、対面だけでなくリモート等、新しい生活様式を取り入れていくべき。
・コロナを経験し、一番に思うことは働き方の多様性。テレワークの困難な職種も今回のような状況が起こったときに、対応できるよう働き方を考えていくことは大切。
・テレワークを全面に推奨しているが、形だけではなく生産性が「あがったか」を検証すべき。
・企業などは、今後も時差出勤等に取り組むべき。
・今後、食料不足が表面化する可能性があることから、市内の農家漁業畜産業の増産への支援を検討すべき。
・国内へ製造業者を戻す優遇策を策定すべき。
・コロナで売り上げが伸びた事業をもっと広めるべき。企業誘致についても売り上げが伸びた業種を積極的に誘致し、雇用を生み出していくべき。
・休業期間中に収入が大幅に減少または無収入になる人について、逆に自粛要請期間中に人手を必要とする業種(医療、運送、製造、福祉等)で働けるように、相互の需要と供給をマッチングできるような仕組みをつくる。
・最低賃金を底上げすることで、域外から人が来るようにするなど、新しい神戸市の魅力を発信すべき。
・ネットショッピングを利用することで顧客の感染リスクは下がるが、物流関係従事者は仕事が激増する。片方が助かれれば片方が厳しい状況になるなどの懸念事項も増えていく。
・自粛解除後のお店の営業の仕方について、業種毎に見本となる進め方を、市や県などの行政機関で調査、研究して公表してほしい。
・飲食店等は、スーパーの店先や生活必需費を買いに行く場所で緊急時に格安で出店するなど、協力できれば良い。
・公的空間（公園スペースなど）を大特価で販売業や飲食業へ間貸しすべき。
・買い物等での時間制の導入や、買い物弱者に対する配達システム等の取り組み。
・レストラン等での感染防止策の消費者への開示を行うべき。
・国や自治体に限らず、各団体や事業主はコロナウイルスに対するマニュアルを作成・行動することにより、意思、経営方針を明らかにする必要がある。
・飲食店に対するコロナの影響は甚大である。テイクアウト事業に取り組んでいるが、7月1日からのレジ袋有料化は大きな逆風である。
・クラスターを懸念する店に対し、金銭的補助等を検討しなければ、第2波が起きた場合に制御できない。
・住宅団地やニュータウンへの食糧供給継続と飲食店の経営安定化のため、キッチンカーの導入支援を拡充すべき。
・個人の行動履歴、追跡が可能となるように全ての店舗での電子マネーの普及が必要である。
・キャッシュレス化を推進し、神戸市が機器メーカーやカード会社等と調整するなど、非常に低コストで実施可能な神戸市版キャッシュレス推進事業があれば、民間事業者は助かるのではないかと。
・神戸市が率先して、施設入園料・売店の販売窓口や区役所の手数料などのキャッシュレス化を行うべき。
・近くで買い物をし、地元の生産品を消費していくようにしたい。
・健常者が率先して社会・経済を回していくべき。
・物価上昇が心配。
・食料品、生活必需品の国内生産を。
・大きな時代の変革期であるため、官公庁、企業全てにおいて当たり前とってきたやり方では取り残されていくことになる。
・鎖国や閉じこもりでは社会は回らない。
・学校を相手に仕事をしており、学校が休みの間は当然仕事がなかった。仕事がなかったことへの支援を。
・健全な経営をされているところとそうでないところが一律に支援されるのはどうかと思う。納税額や損失額に見合った補償が必要。

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策安心レストランガイドブック（抗菌加工）を作成すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・テイクアウトマップの作成支援を。
<ul style="list-style-type: none"> ・電動アシスト自転車の利用を促進するために、神戸市在住の人の購入に対して、神戸市から費用の一部を補助するとともに、神戸市を電動アシスト自転車普及促進のまちとして前面に出し、製造販売等の関係会社や製造工場を市内へ誘致することを提案する。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染者ゼロの街中の飲食店でソーシャルディスタンスを取る必要があるのか疑問。そのような営業形態は採算が合わず長く続かないため、さらなる税金投入か、廃業のいずれかになることを危惧している。
<ul style="list-style-type: none"> ・外食やスポーツ、芸術鑑賞、旅行などは機会があれば積極的に取り組みたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災の借金返済にめどが立ち、これから三宮の開発が始まるというときに、コロナの経済対策に税金が使われると思うと複雑。
<ul style="list-style-type: none"> ・エンターテインメント、旅行等に関して明確なルールがあると、とても動きやすくなる。
<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドを目論んでいた観光事業は衰退する。オリンピックも一過性のものであるため、国内観光客を増やすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナをチャンスと捉え、衰退した観光業、飲食業に力を入れるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・観光戦略は住みやすい中長期滞在型生活観光を実施すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県には良い観光地がたくさんある。のんびり過ごして美味しいものを食べて経済的にも地元貢献したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・5年後のインバウンドに向けた空港整備は変わらずに進めるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・国内観光客を増やすために、ベイシャトルを和歌山まで伸ばしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策安心旅行ガイドブック（抗菌加工）を作成すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を十分実施した上で、「来て下さい、ウェルカム神戸キャンペーン」を実施してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・東京一極（都会集中型）のあり方を見直す良い機会であり、地方分散の良い機会。
<ul style="list-style-type: none"> ・名谷、鈴蘭台、垂水などの駅前再整備や北神急行の市営化などが進められ、市域全体を活用した分散型の都市づくりが具体的に進められようとしている。withコロナの時代にふさわしいまちづくりと評価できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域での行事などの中止・決定が相次いでいるが、今後はどうやったら実施可能かをみんなで知恵を絞って前向きに考えていくべき。また、行政はそのためにどう支援するか考えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・東京一極集中の怖さを知ったが、地方創生は進んでいない。
<ul style="list-style-type: none"> ・「都市集中型」から「地方分散型」へ変わっていかなければならない。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大をはじめ、様々な問題が都市に人口が集中していることから、今後は農村部（神戸市においては北区・西区）への移住促進やレジャー誘致の政策をより一層進めることを期待。
<ul style="list-style-type: none"> ・東京一極集中を見直す空気が流れている今、スマートでおしゃれな神戸の住みやすさをアピールしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市のコンパクトシティ構想を考え直してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・会社は東京・大阪にあっても、通常業務は遠隔のサテライトで済ませられ、個人の住空間とライフスタイルの変革を支援する都市生活に期待。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市を持続的に発展させるためにも、「里山暮らし」のような今まで市内にあった地域や物や資源、エネルギー等を使い、地域で循環できる社会への転換が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーターフロントに隣接した神戸の都心は、ほどよい密度で、そこまで無理をせずともソーシャルディスタンスを確保できる街であり、密度が高すぎる東京や大阪に比べて大きな優位性を持っている。このような逆転の発想で神戸の都心ウォーターフロントを再評価し、売り出していくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅街の中にある空家を魅力的なシェアオフィスとしてリノベーションすれば、withコロナ時代の需要と合致し、地域のコミュニティとして機能させることもできる。個人的にも利用することにとっても興味がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・空家をテレワークに適したシェアハウスに改造し、ワークライフバランスと空家活用の双方の課題解消につなげてはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・新たなビジネスに相応しいオフィスのあり方を考え実践することで、神戸をビジネスの拠点として発展させるべき。

<ul style="list-style-type: none"> ・マンモス人口ではあるが、都市的賑やかさ、山や海などの自然、中心部より少し離ればのどかな田舎風景等、他の都市にはない魅力が沢山あり、住みやすさや利便さが神戸市にはあると感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸の良いところは、都市と田舎の良いところ取りができる街であり、バランス良い美しい都市であるところ。東京・大阪ほどの密集はなく、自然も多くある。工夫すれば、家に籠らずとも、外気に触れてリフレッシュできる貴重な資源がたくさんある。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸ならではの農村地域の活性化と緑の聖域の保全を展開すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある道路空間・公園空間の可能な範囲での癒しの空間への転換を期待。
<ul style="list-style-type: none"> ・通勤形態の変容からくる自転車通勤に対応した駐輪対策が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の声かけや安否確認は、これまで以上に地域の方との助け合いを大事にできたら良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・教育事業や地域コミュニティの積極的なIT活用により、人と人との交流機会を減らすことなく暮らしていけるようにすることも重要。その際、高齢者などのIT環境に不慣れな方々への積極的な支援を行っていくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの活性化をめざし、郊外へのサテライトオフィスや市民農園の誘致、高齢化団地への子育て世代の誘致をおこない、世代バランスの取れた居住地域の拡大をめざす。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ（学校行事、地域行事など）の維持と子育て世代・高齢者などのイベント・サービスは変わらず大事にすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・住民自治会の高齢化で、新しい生活様式に十分対応できていない組織も多いのではないかと。新たな住民自治のあり方の検討も含めて、withコロナ時代の神戸をつくりあげていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・若いときは町内会で何でも相談して物事を進めていたが、今はとんでもないという目で見られる。このような時代を迎えたのだから、町内会の再生を考えてはどうか。何でも行政の責任にするのも無責任であり、みんなで力を合わせる手段として、町内会の再生を提案する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルスの恐怖におびえ、老人が楽しみにしている給食会などを中止にすることが社会的に正しいことなのか。そのエリアにウイルスがない状況が続いているのであれば、少し対策を緩めていかないと「特効薬ができるまで」「ワクチンができるまで」といった対策を取り続けていることの意義がよくわからない。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域は人と人の触れ合いが大事。そのためのイベントの準備・運営を担う人とのつながりが大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・各市民団体のITリテラシーを高めて再組織化・活性化しておくことが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・Civic Pride溢れる地域コミュニティを創発し、市民が積極的に快適空間作り・維持に貢献できるしくみの提供に期待。
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティに支えられてきた小さな経済活動の重要性を知ることになった。
<ul style="list-style-type: none"> ・文化・芸術・スポーツ等を楽しむ際、3密空間を回避しながらこの醍醐味を楽しめる空間作り（換気、人（席）の配置、施設の運用方法等）を行うべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・忘れてはならないのは、自粛期間、生活基盤である水・電気・ガス・交通機関・ごみ収集が変わらず動いていたことであり、震災時はこれらがダメージを受けたことを考えると恵まれている。インフラを支えてくれている方々に感謝し、インフラを長期的に維持させていくための資金は惜しむべきではない。
<ul style="list-style-type: none"> ・密を避けるため、地下鉄山手線の時間当たり本数の増加、乗車時のマスク着用の義務化を実施すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・新たなモビリティの展開など将来動向も見据えながら、車両としての自転車の扱いを明確にし、それに合わせた道路整備と幼児期からの交通安全教育を促進すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・世界最高水準の安全な上水道は変わらず大事にすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・5Gの実装を進めるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・自転車通勤の推進を打ち出してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・市内の備蓄物資を増やしておくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害とコロナが同時発生したときの対応のため、避難施設の利用法を見直し、市民に啓蒙すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害が増えていくなかで、防災用品について考え直したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・これからも自然災害は起こるが、いざ逃げるときにどうすべきか考えておく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・アプリを活用し、避難所情報などを公開すべき。

<ul style="list-style-type: none"> ・複合災害の発生に備え、避難所の安全対策、避難計画の見直しが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・民間施設などを借り、避難所を設営すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフへの対応のため、既存の広域避難場所等に新しい設計を盛り込み、災害に強いまちづくりを進めてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・過去の災害対策事例を基に、災害対策特化チームをつくり（建築・医療・福祉・物流等）、避難所と、対策室・医療室が入る災害対策ビルを作ること、災害発生時に滞る事なく、自治体の長が指令を出し活動できるよう備えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・自宅避難に備え、災害発生時に系統が停電した際にも電力供給が継続されるような、レジリエンス性を備えた分散電源の導入支援を拡大させ、インフラの安定供給を図るべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大が懸念される状況の中にあっても、インフラ整備事業（特に防災・減災・国土強靱化に関わる公共工事）は必要不可欠。
<ul style="list-style-type: none"> ・決まった予算を毎年分配するのではなく、本気で削減し、災害対策の予算に振り替えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民にも物資の仕分けや配給の仕分け、運搬、トイレ等の清掃、避難民の点呼など、あらゆる細かい作業をしてもらうべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・介護・障がい福祉事業部門においては、非常時でも安心して事業が継続できるようにすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・独居世帯の双方向緊急時連絡方法の確立が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染者への差別や医療従事者の皆さんへの差別や偏見をなくすとともに、国や自治体がさらに守ってあげてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場が崩壊することにより高齢者が行き場をなくしかねない。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後、多くの失業者が予想される中、介護現場での無資格者の作業を認めるなど、介護事業の門戸を広げてはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・外出自粛時であっても、障がい者が買い物や病院に行くときには、同行サービスが使えるようにすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は自粛することが多い。自宅自粛も大変だが見守る対策が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にネットを通じて家で趣味や習い事を行うなど、生きがいを大切にするためにネットの使い方を教えてあげるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・在宅ワーク、オンライン授業は今後も進めていくことで、引きこもりの方も社会とのつながりを持つことができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・単身者も丁寧に扱ってほしい。給与が減少している人は多いのに、救済措置が少なすぎる。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染者や対コロナ関連業務従事者など、その家族にまで差別、疎外的措置のあったことが大きな反省点である。大人、スマホ付き世代、こどもたち、それぞれの世代に見合った「差別や疎外」思考を無くする教育、啓蒙をしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染することよりも、感染することによる差別や、解雇の方が怖い。
<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児（者）家庭が感染した場合の不安は、親子一対で考えて想定していく必要がある。今後第2波が来た場合の不安を訴える家族が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児や発達障がい児のための放課後等デイサービスは、小規模事業所が多く、その環境も3密となり感染拡大のリスクも高かったため、支援強化が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護のあり方、諸制度の見直しによりコロナで生活が激変した方への対応の充実をさせることが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・企業が事業規模縮小に向かい、非正規雇用作業者や生活保護申請をする人が増えるのではと考える。今後、あらゆる税制の割合があがり、これからの新社会人は大変な責任を負わされて行く様な気がする。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と若者の情報格差が大きいため、高齢者宅向けに安価なスマートスピーカーを無料配布（または補助）し、神戸市からの重要な情報をダイレクトに聞いてもらえる環境を作ってはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を含めた地域住民のITリテラシーを底上げし、さらにUX/UIの向上により気軽に便利に使えるシステム（例えば北海道中頓別町ではテレビとリモコンでUberが呼び出せるように調整している）の実装が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市から文字認識ツールでのコミュニケーションを広めてもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・マスク着用により、難聴者のコミュニケーションが困難となっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市内の学校教育の質を上げるとともに、リモート教育環境の充実（いかなる時にも教育の継続ができる）と、神戸が持つ自然体験、こどもの居場所づくりなどを展開することで、こどもの教育に安心ができ、創造力のあるこどもが育つ神戸をめざすべき。

・学校でオンライン教育ができる環境の構築を進めるべき。こんなにも日本が遅れているとは気づかなかった。
・母子家庭だが、私が感染すればこどもはどうなるのかといった不安があった。
・こどもたちの学びの場が減らないよう、学力差が広がらないように環境整備や設備を準備してほしい。
・コロナとともに生きるために大切なことは、こどもたちの居場所である学校生活を奪わないこと。
・今後、市内学校で感染者が出た場合も、即休校ではなく学級閉鎖に留めるなど、こどもたちへの影響を最小限にしてほしい。
・ネットでのサービスと対面を効率的に活かし、通学しなくても進められる教育を考えてほしい。
・授業は無理でもオンラインでのホームルームを実施する、ZOOM自習を設けるなど、こどもが不安にならないよう、一体感を持って学習できる取り組みなどの工夫をしてほしい。
・熊本市では全小中学校でオンライン授業を実施していたが、神戸市ではオンライン授業の導入が進んでいない。
・オンライン授業は余計な刺激が減り集中できるので、発達障害の児童にも有効ではないか。
・オンライン授業を不登校の子にも応用できないか。
・「withコロナ」の時代は、障がいのあるこどもたちが、どこにいても療育または教育を受けられるようにしてほしい。
・小中学校のコンピュータ室からYouTubeの教育コンテンツを見えるようにすべき。
・小中学校のコンピュータ室を学校開放施設に指定して、児童生徒に土日、夏休み、冬休みに自由に使えるようにすべき。
・小中学校でのPC配布により、一層ネット回線の安定性は重要。
・小学校を衛生的に清潔に保ち、給食の配膳方法等の対策してほしい。
・経済について学ぶ機会を設けるべき。
・ICT機器活用のスタッフ等を配置して教員のスキルアップを図るべき。
・こどもと教師の心のケアが見過ごされていないか注意すべき。
・こども同士が密に触れ合えない「withコロナ」の状況の中で、友達づくりが苦手なこどもは、例年以上に、クラスや休み時間に寂しい思いをしているのではないか。
・「withコロナ」時代にあっては、教育の「機会の」保障的な話がよく重視されるが、「withコロナ」時代だからこそ、機会を保障するだけでなく、総合的な生きる力を育むための「主体的・対話的で深い学びの保障」をするのだというスタンスが大切。
・小中学校の少人数クラス編成を行い、個々に寄り添える関係づくりを進めるべき。
・3密を避けるため、小中学校の1クラスの人数を20人以下にしてほしい。
・こどもたちのために頑張っている先生が教育に専念できるサポート体制が早急に必要。例えば、清掃・給食配膳等はシルバーサポートセンターを活用してはどうか。
・働き方を変えていかなければならない。例えば、学校教員や保育士の事務作業等、本来業務以外の業務量を少なくしていく必要がある。
・授業時間が少なくなったので、特別支援学校の先生はエビデンスに基づいた指導方法（応用行動分析、PECSなど）を学んでほしい。
・幼児教育・子育て支援ネットでの展開と予防を徹底することと、子育て広場や交流会の解放は、産後うつ、孤立化を防ぐために引き続き重要。
・子育て世代が有事の際、こどもファーストの動きを行うための生活費の確保（ベーシックインカム）があれば、こどもの休校対応、課題のフォロー、家族の健康管理に安心して時間を使える。
・各学校のHP、情報発信のあり方を充実させるべき。
・こどもと大人、こども同士のコミュニケーションは今までと変わらず大事にすべき。
・他県でオンライン保育所を開いた等の情報も見たので、検討してはどうか。

<ul style="list-style-type: none"> ・今後、失業者や保育所入所希望者が増えると予想されるので、早急に保育施設整備をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・消毒専門の職員を含む保育所職員を増員し、安心して働ける環境を整備してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・全保育施設にコロナの実態調査を実施し、現場の生の声を反映してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・医療体制と並行して、保育体制も計画に入れて今後の体制作りを考えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市は、大学の数も周辺都市に比べて多いため、今回のコロナ禍は大学生にも大きな影響を与えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・電子図書書籍の充実や移動図書館、学校や市からの本の配布など、こどもが長い休みになっても本が読める環境づくりを行うべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・家事、育児における女性の負担が大きいため、男性がもっと分担して行うべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市教育委員会から突然段ボールが届き、沢山のおやつやお米等の食料品が入っていたことに大変感謝している。
<ul style="list-style-type: none"> ・休校と自宅勤務が重なったことで、家族内が不穏な雰囲気になり、家庭だけで過ごすのは困難だと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・stay home期間を母子(幼児)だけで家にいると息が詰まりそうだった。分散登園で近所の友人に生であった時、心底ホッとした。生活には登場人物が多い方が心身は豊かでいれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・給食という唯一の食の供給も途絶えてしまった。
<ul style="list-style-type: none"> ・人に流されず自分が守ろうと思ったことは最後までやりきる力、違った人を批判するのではなく、自分と同じ価値観を持った人やその中で頑張っている人たちを応援する、間違った情報に流されない正しい目を持つ、そんな子育てを今後も変わらずしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽家等の芸術家は一般の方より感受する力が高いことから、この機会に教育現場に採用し、神戸市の子どもたちを心の底から豊かに温かく育てられる改革を望む。
<ul style="list-style-type: none"> ・ライブやスポーツ等、インターネットの画面越しで成立するようになったが、子どもたちのためにも、本物を生で見る機会は変わらず残してあげたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・こどもを育てる環境はだんだんと人任せになっている気がする。
<ul style="list-style-type: none"> ・コンサート活動を行う上で、ホールやアーティストへの経済的支援をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・どういう団体に補助するかなどの基準は必要だと思うが、神戸の誇る文化・スポーツ団体が安心して活動を再開できるよう団体補助の形で支援する仕組みの検討が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・文化面での改善が心配。
<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを開催できなくても、開催に向けて検討することでwithコロナの時代を乗り切ることが重要。
<ul style="list-style-type: none"> ・芸事に関する習い事は厳しい状況になると思う。自営や芸事などの夢をめざすことに、ブレーキがかかってしまわないように、何ができるのか考えることが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・「神戸新開地喜楽館」にネット設備の補助を行うなど、きちんと人気や実力のある落語家、浪曲師、講談師や、音楽家を呼べるような興行や企画をするところに、補助金を出すなどの制度を確立してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・東京からの移住促進を行い、文筆家など、芸術活動を行う方々に特化した住みやすい施策ができないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・手続き関係のオンライン申請を進めるとともに、アナログも併用しながら全ての人がサービスを受けられる形にすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・民間と市が持っているデータを連携し、課題を可視化するとともに、本質的な解決に資する施策展開、逆に成果のあがらない施策廃止を判断すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な根拠、データを明示して市民に政策を示してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・生活上必要な手続きや届出をICT化し、そのうえで市民への周知が必要。行政が体制を整えたつもりでも、市民には敷居が高いことがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政のICT化による手続きのスピードアップを図るべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・対面でないと行えない手続きを減らしていくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県・神戸市は今やるべきことを認識し、最重要事項であるコロナに対してさらに明確で具体的な方向性を打ち出し、強い指導力をもって、一般県民・市民を引っ張っていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・三宮の開発など、withコロナの時代に対応できていないと考えられる事業については、立ち止まって見直してはどうか。

<ul style="list-style-type: none"> ・市民の意見を聞くのもいいが、まずは行政のプロとして今回のコロナ対応について自らを反省し、行政はどうあるべきであったか、まとめてみるべきではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民意見募集のように、市民の意見に傾聴する取り組みを継続することが大切。
<p>「withコロナ」は行政と市民の共同でしか解決しないので、政治的立場、セクト的立場をこえて対等な対話を重視し、今回のような意見募集および公開を通じて絆を広げるべき。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・常に市民・事業者・行政が連携して都市の変化を様々な視点で議論するプラットフォームを立ち上げ、神戸市へと方策・政策提言をしていくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・企業、自営業者、家庭など各方面において行政機関だけでなくwithコロナについて考える事が大切。
<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい生活様式」の神戸版みたいなものを作成したらどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の安全を優先する神戸市の施策は引き続き大事にし、他市町村より迅速に対応してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスを終息させるまでは、「withコロナ」ではなく、「抑え込みながら」「鎮めながら」のような前向きな言葉が良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言解除後は控えてくださいと、禁止でもなく利用許可でもない曖昧な状態が神戸市内の公共施設・公共交通等多く見られるので、はっきり示してほしい
<ul style="list-style-type: none"> ・自粛要請は市民に負担を一方向的に押し付けるものであった。感染拡大の責任を取りたくない意図が見える。
<ul style="list-style-type: none"> ・自由な活動と自粛をその時々によって見極めていく、行政の的確な判断力はとても重要。
<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業は行政よりも「withコロナ時代」の仕事の仕方について考えており、行政職員の意識は際立って低い。
<ul style="list-style-type: none"> ・他都市の事例等、良い制度や政策は取り入れるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・こんな時代だからこそ「国から行政」ではなく、「地方から国」に物申すシステムに期待する。
<ul style="list-style-type: none"> ・既得権益の排除と適切かつ素早い情報公開により、行政への信頼感が増す。
<ul style="list-style-type: none"> ・withコロナ時代においても国際都市を目指すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・都市部中心ではなく、地方に人の流れが分散化できるよう、地方の空き家への誘致や農林水産業に力を入れる。
<ul style="list-style-type: none"> ・日本での感染が少なく、政府の対策が成功しているような宣伝をしていることが、行政に対する不信感を高めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・保障について国や自治体に頼る姿勢を改めるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・スマートシティ戦略を見直し、シティを分散化させる必要がある。複数の市で議論しながらその内容を総合計画に反映させるなど対応してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市には、感染拡大の防止と個人の生活・価値観のバランスを大事にした管理をめざして、会社やその他機関のサポートや指導を行ってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルデータ化の流れを神戸市として至急作り出し実行することで、インフラ上だけのスマートシティから、実質的な血が通った本当のスマートシティが実現され、コロナにも強く、経済活動も動き続けることができる「withコロナ」の都市ができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・公務員に対するIT教育が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーの仕組み等、有事のときに全く機能しなかったことを見直し、いざというときに機能させることができるよう整備することが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・「週休3日制」を役所が先頭切って進めてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・屋外公共空間や郊外の野外活動施設が利用しやすくかつ魅力的なものになるよう、民間提案による民間資本の活用による再整備も考慮しつつ、検討することが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・古びた三宮地区の整備は、これまでと変わらずに進めるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・特別定額給付金や持続化給付金があるが、税金であり、次世代への借金に思えてしかたない。
<ul style="list-style-type: none"> ・間違いを怖がるのではなく手遅れを恐れる、上司の了解が無くても個人の責任で発信できるように権限を明確にする、減点中心の人事評価を止め市民のためであれば新しい取り組みへの挑戦を評価する、等々の普段の取り組みが不可欠ではないか。

<ul style="list-style-type: none"> ・国、地方においては従来の既得権益の維持だけを固執したやり方がいまだに何ら変えることが出来ていない。県、市職員のレベルアップを図るべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少とともに公共施設に関する1人あたり市民負担が増大しているが、テレワーク等の進展に伴う施設需要の減少に合わせて保有資産のスリム化を図る必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・各企業からの要請に応じて、電子化の提案（コンサルタント）・助言等を個別にしていける部署があってもいい。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ関連のFAX処方箋によるお薬の手配（郵送）をしたところ、多くの患者さんに大変喜ばれた。行政も市民目線になってほしい
<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーカード、マイナポイントの活用を進めるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの申請を進めるため、マイナンバーカードを読み取るカードリーダーを全世帯に配布すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・選挙がいつまでたっても紙媒体。電子化すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の皆さんが過労で倒れないか心配。今こそ職員の中途採用を検討してはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・市職員の配属について、一人の職員にあらかじめ通常時所属と非常時所属を決めておくことが良いのではないか。通常時に研修等を経験しておくことで、感染拡大期にスムーズに非常時所属に移行することができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・押印文化を廃止すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人対応コロナ相談窓口を作るべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・市で行う施策やサービスについて、もっと知恵を出し、税をどのように活用し、付加価値を高められるか考えるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市民ファーストの施策を実施してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員が在宅勤務を推進するための環境整備を実施すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・多額の公費の出費が余儀なくされることから、市の行財政計画や施策に少なからぬ変更を生じさせることになるが、そのことを市民に説明して納得してもらうことが感染症対策では重要。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政の方も家族がいるのに公僕だからと無理難題を言う方もいるが、市民、県民が同じ方向を向いて協力し合える行政をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・内部にいるものとして、失敗したら失敗したと素直に言える役所になってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別が不適當な場合、当番が持ち帰る仕組みになっているが、集積場に出されたゴミは全て市で回収してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに関する広報の内容は十分であるにもかかわらず、不十分であると誤解されており、市民への情報伝達のあり方について、今一度見直すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症関係の情報は、横文字が多く、多くの高齢者はついていけない。コミュニケーションの取り方も今以上に多様性を持たなければならない。
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な感染対策や、感染拡大を予防するための「新しい生活様式」の定着が図られるよう市民・事業者呼びかけるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県や神戸市は、大阪に比べて発信力が弱く、そう思っている人が周りにも多くいた。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、強制的な方法ではなく、市民に自主的な協力を期待するのなら、速やかな情報提供が前提となる。
<ul style="list-style-type: none"> ・何事も慌てず、マスコミやSNS等の情報に振り回されないように気をつけたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市HPのコロナ感染状況について、誰が見ても一目でわかるサイトを構築すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の生活利便性を向上させるための情報発信を行うべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙を充実させることで、市からの回覧物は廃止してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市民としてのプライドを醸成することと、正確な情報発信が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市は様々な取り組みをする割に発信力がお粗末で、またその取り組みも途中で投げ出しているという印象を受ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の自立、自己責任の強化が重要であり、情報の受け手である市民のレベルアップも必要。

<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市から文字認識ツールでのコミュニケーションを広めてもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・withコロナ時代は、感染リスクを避ける行動が求められ、一人一人が自覚してそのような行動をとることが必要。行動変容を促進し、意識改革を積極的に啓発する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・地元メディアを活用して情報コーナーを設けてもらい、神戸市民に直接声かけすることが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSとの連携について、海外では情報管理に問題があるとして忌避する国も少なくないというのに、なぜ神戸市は逆方向に進もうとするのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・すべての人が、情報を手に入れ、正しい判断を下せるようにするためのインフラ整備が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・個人個人の行動については、コロナ問題に対する正確な情報提供と行政側の求める方向性をシンプルに示すことが大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・産学官の連携により、神戸をアピールすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・六甲山をはじめとする豊かな自然や歴史的資源などを神戸市民が率先して活用することで、さらに磨きをかけ、その魅力を発信していくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人に対するフォローアップ（複数言語化）が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・生活情報の複数の入手手段の確立が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策として社会的距離を取ったことで疎遠になった意思疎通を良くする手段として、「情」を積極的に利用する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルディスタンスが浸透し、人との距離が離れていくことで、心の距離まで離れていくのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸が阪神淡路大震災から立ち直りこれから変わると期待していたのに、コロナでまた元気がなくなると思うと寂しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・自然の摂理を知り、ともに生きることを考えるため、まず自分が知ることから始めたい。行政が促すのではなく、自らの気づきで醸造されることを期待する。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナは「必要な物」と「本当は必要なかった物」を教えてくれた。
<ul style="list-style-type: none"> ・人と人とのつながりを最期まで絶たないように、保ち続けることが大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災より再起した神戸市の底力と人と人とのつながりは大事にすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える関係の構築が大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・「脱コロナ時代」にも備えるべき
<ul style="list-style-type: none"> ・緊張感をもって第二波への備えを進めるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回のコロナウイルス禍から10年、20年先を見据えた戦略が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・「with～afterコロナ対応戦略」の提案・公開を望む。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市withコロナ対応戦略は、市民がアフターコロナ、withコロナ時代を生き抜いていく希望を持てるようにすることが大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市withコロナ対応戦略（骨子案）のフェーズ3にある「通常」がコロナ前のそれと同じものと捉えられることを避ける必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・戦略や戦術を策定される際には、是非とも公助という面で「通常への回復」ができない人をなくすという観点を常に持っていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・完全に元の生活には戻れないという覚悟を決めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・3密なくして人間の社会生活は成り立たない。
<ul style="list-style-type: none"> ・無理に戻ろうとすると強いストレスになるので、ゆるやかに現状を受け入れつつ、その中でできることを模索していくことが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観と出会うことによる触発が重要であり、これこそが都市の魅力、価値の源泉となっているが、今これがコロナにより削がれている。
<ul style="list-style-type: none"> ・出かける時間帯や滞在時間を意識する必要がある。

<ul style="list-style-type: none"> ・神戸の震災が大きな経験となり、我慢、辛抱等が今回の自粛期間に活かされた。
<ul style="list-style-type: none"> ・この大きな災害によって失ったもの以上にこれから得るものが多く出てくれば良い。また、自らもそういう風に工夫していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・できないではなく、やってみて問題があれば解決法をみんなで探っていくことが重要。
<ul style="list-style-type: none"> ・こういう時に大事なものは、たくさんの方の頭脳を使って知恵を借りて、動くときは少人数で判断し進めること。今回のアンケートも、非常に良い取り組み。
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションは表情や声だけでなく、実際に会ったときの空気感のようなやりとりが大切。特に保育所や小中学校、高齢者の施設などにおいては、人と人のふれあいが大切。
<ul style="list-style-type: none"> ・リモートのコミュニケーションが日常的になるかも知れないが、人の気持ちにおける感性の部分が発達しないまま社会が動いていくのではと懸念をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・対面や異空間への警戒心が強い方に対してアプローチを行う新たな手段として、オンラインに可能性を感じている。必要な行政機関や支援団体でのオンライン導入を強力に推進すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・形式だけにとらわれた古いルールを変えていくべき。この手続きは本当に必要なのか、もっと意味のある効率的な手段はないか等、ルールに則って行われる全ての日常生活・経済活動において、考え直すこと、意識して変えていくとすることが大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・変わっていかねばならないのは、固定観念、常識等の思い込み。
<ul style="list-style-type: none"> ・変わらなければいけないことはなく、以前の生活に戻れば良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・従来のつながりが切れかかっている。3密回避やステイホームにより、コミュニケーションの取り方が個人差で極端に変わってきている。
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの慣習や考え方を見直し、時代に合わせた新しいものを積極的に取り入れる良い機会として、好意的に受け取っていくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・with コロナ時代の新しい生活様式は、これまでの男性主導の日本文化を変え、多様な事情を抱える社員のダイバーシティやインクルージョンにつながる。
<ul style="list-style-type: none"> ・趣味活動や勉強、仕事で離散していた家族が、互いの良さを再確認し仲良くなる現象が発生したことで、失っていたものを取り戻す期間になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防でテレワークの活用が普及したことで、家族と過ごす時間が確保できたことは大きな成果。
<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークで日中家にいたことで、自分の居住地の環境やお店、病院などの存在に気付いた。
<ul style="list-style-type: none"> ・本当に仕事をしていたのは誰か、テレワークで炙り出された組織は枚挙にいとまがない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ステイホームということで、ストレスがたまると言われる方が多数いるが、忙しさに追われる生活を今一度立ち止まって見直すのも良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・医療職もそれ以外の仕事も本当に毎日9時-5時で働く必要があるのか。みんなが同じ時間・曜日に出社するという今までの当たり前を変えていくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・隔日での出勤や仕事時間の変更によって成り立つところも見えたので、改めて日本人が普段働きすぎだったのではないかと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防を行いながら、過度な恐れや誤った情報に惑わされず、適度に恐れ、適当な対策を取りつつ、通常生活を続けるような工夫が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・前向きな変革には余暇等の楽しさが根底に必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化時代を見据えて、人にしかできない部分とAIや電子化で対応する部分との線引き・仕分けが重要。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分と向き合う事になったと思う。自分はどうしたいのか、どうするのか。条件が変わった社会で、自分はどのようにやって行くのか。誰かが、国が、助けてくれるなんて思っていたら生きていけない。
<ul style="list-style-type: none"> ・「神戸市withコロナ対応戦略(骨子案)」で示されている内容は、具体性が無く、論評できない内容である。個々の政策-施策を示してほしかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスと闘って、人の健康と安全を守らなければならないので、「withコロナ」という表現には共感を覚えない。
<ul style="list-style-type: none"> ・民間では異業種間での従業員のシェア(平時は観光業、非常時は物流など)が進むことが考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・カタカナ語をやめてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から自分の行動をメモを取るなりして、いつどこで何をしたか、責任を持てるように身を引き締めたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・近所の公園で大人がマスクもせず愚痴をこぼす姿、ホームセンターで我先にと商品を買ひ漁り、お釣りを手渡ししないことに腹を立て、入り口付近に消毒液がないことを店員に恫喝する姿を目の当たりにし、必要なのは、改めて思いやりに尽きる思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園の場を増やし、都会で少しでも食料を生産できるようになれば良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の感染症対策として、研究人材の育成とIT人材の育成が重要。
<ul style="list-style-type: none"> ・大事にすべきは、「女性を守ること」。
<ul style="list-style-type: none"> ・女性の特性を活かすことで、多くの産業へ変化が生まれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市民のITリテラシーの向上に取り組むべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・IT導入について、助成金だけではなく技術指導する人材も必ず必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸の良さを国内外に広め、さらに国際化を進めるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市は、よく言えば独自路線、悪く言えばピントがずれた政策をしがち。
<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市のトップの発信力は、大阪府・大阪市には及ばないかもしれないが、施策の実行力は他都市と比較して優れている。
<ul style="list-style-type: none"> ・各店舗や学校、各施設などで消毒することに重きを置くのではなく、ひとりひとりの自覚に尽きる。誰かの責任にしない社会になると良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりが無くなり、自粛警察のような風潮はあってはならない。
<ul style="list-style-type: none"> ・お金と医療のデータを国任せ、企業任せとはせず、市民が活用していくことがコロナ対策の一番地であり、都市生活の未来でもある。
<ul style="list-style-type: none"> ・フェーズ1やフェーズ2の状況に応じた生活必需品（食料や電気）の現物支給を検討してはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後人口が減少する中、神戸が生き残っていくためには、在住、在勤、在学の人々の心の底に「神戸愛」が根付いている必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・日本人としての社会的秩序や衛生観念、他人に対する思いやり、伝統的習慣などは他の国々からも称賛の目で見られており、今後も持続すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・「withコロナ」時代では、昔の神戸市のように新しい生活様式、経済活動を促進し、全国の先駆けとなってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回の感染症では国の決定を受けて、地方が各自で対応する必要があったが、地方自治の重要性とリーダーである県知事、市長の強いリーダーシップが求められると感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体トップのリーダーシップが必要。